

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900559		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム玉里の里	ユニット名(たんぽぽ棟)	
所在地	茨城県小美玉市高崎1824-500		
自己評価作成日	令和 2 年 12 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 4 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873900559-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所は、周辺に田園・放牧地を有し、リビングからは紫峰「筑波山」も眺められるのどかで緑豊かな環境下にあります。入居者様お一人お一人の尊厳を大切にして、家庭的な雰囲気の中で在宅生活時と同じように安心して暮らしていけるように支援しております。
 ・地域の行事等には積極的に参加しながら、地域に選ばれるグループホームを目指して、気軽に立ち寄れる施設造りに努めております。
 ・関連施設として、精神科・内科の病院の他、介護老人保健施設等の事業所もあり、相互連携により医療相談・入所相談が受けられる体制を構築しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近隣に牧場、隣接地には同一法人が所有する農地があり、筑波山が遠望できる自然豊かな場所に、立地している。
 同一法人の医療機関、介護老人施設等もあり、利用者の健康管理、入所相談等できる体制が構築されており、家族等の安心にも繋がっている。
 職員間のコミュニケーションも良く取れており、常に話し合い、利用者がその人らしいあり方を支援するように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、玄関口や棟の共有スペースに掲げるなど各自で確認している。	理念を職員会議時に確認するほか、玄関やユニットに掲示して意識づけしている。その人らしい日々が暮らせるように理念に沿ったサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等積極的に参加している。地域ボランティアの受け入れ交流を図っている。今年度は、コロナウィルス感染防止のためボランティアの受け入れは行っていない。	隣接している同法人の畑で芋掘りに来た保育園児と交流しているほか地区のお祭りなどに参加している。介護の相談窓口を開設し、近隣住民からの相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの受け入れ、地域行事への参加等で認知症への理解を深めている。今年は感染防止のため自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。近況報告や意見をいただきサービスの向上に努めている。	区長や民生委員等が参加して、事業所からの報告をして委員から意見を聞いている。行政からは感染症の状況や対策などについての話があり参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小美玉市地域密着型サービス事業者連絡協議会に参加し、協力関係を築くように努めている。今年度は中止。	介護保険更新等や運営上の困りごと等、里長が定期的に窓口を訪問し相談し、助言を得られるような良好な関係を築いている。生活保護受給者もいるので社会福祉課とも連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員マニュアルを熟読している。身体拘束についての話し合いも行っている。玄関、2階のバルコニーのみ夜間施錠を行い窓は転落防止のため一部開閉範囲を制限している。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開催し、身体拘束をしないケアに努めている。職員は内部研修を年2回受けている。やむを得ず身体拘束を行う場合に備えての書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にグループホーム勉強会を行い議題に取り上げ学んでいる。虐待をしないという意識は全職員の中に浸透している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政から関係資料を調達し、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読み合わせを行い、同意の下に署名を頂いている。又、退去される場合は今後の方向性や必要なサービスなども連絡・説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等が、意見や要望を出しやすい雰囲気作りをしている。玄関にいつでも意見、要望等を書き込むことが出来るよう用紙、筆記用具を備えている。	家族等の面会時に積極的に声掛けをしたり、電話で意見や要望を聞くようにしている。家族等から意見や要望が出た際には職員会議や運営推進会議で話し合いの場を作るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議にて意見交換を行う機会を設けている。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに毎月の職員会議で話を聞いている。職員からの意見で、利用者の良好な関係維持のため、居間兼食堂の席順に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により、個々の職員の環境に合わせて勤務体制を組んでいる。研修参加の機会を提供し向上心を持って就労できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は感染防止の観点から研修等は自粛している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内旅行などで親睦を深め、情報交換等を行っており。法人他グループホーム施設持ち回りにて施設見学及び議題を設けた勉強会を実施している。今年度は自粛。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の施設見学を実施している。入居前、本人、家族との面談を行うことで、困っていることや、要望等を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等をできる限りサービスに反映し、施設の意向を説明し、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとの情報交換や病院との連携をとり、ご本人にとって必要としている支援を提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する一方であると共に人生においては、大先輩であり、教えていただく場面も多々あり、コミュニケーションを密にして信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人も交えて近況報告や、家族の様子等話せる機会を設けている。現在は面会は原則中止している。月1回のお便りにて、本人の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気兼ねなく面会に来られる様、又は外出・外泊等制限せず自由に出来るようにしている。現在は外泊、外出、面会は原則中止。	入居時の聴き取りや日々の会話の中からこれまでの馴染みの関係を把握しているが、職員間で共有できるような記録が作成されるまでには至っていない。	聞き取り調査で得られた情報を記載し、フェイスシートを充実させるとともに職員間で情報共有することを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係を把握しておりレクリエーション等交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サマリーを入院先等にお渡しし、情報の共有を図っている。契約終了後はほとんど継続される家族はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時などに、本人やご家族様の希望や意向を聞き、入所後も月々の関わりの中で思いや意向を把握して希望に添えるようケアを行っている。	日々の支援の中で、居室等で意見や要望を個々に聞いている。思いを表出できない利用者には、利用者の立場になって考え、職員間で検討し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの品を持参していただくことで、落ち着き安心して生活を送っていただく。家族、その他、関係者から情報収集し、これまでの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントシートに記録し、心身状態、体調の変化を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各利用者について会議を行い、一部センター方式を用いて介護計画を作成している。基本、半年に1回見直しを行います。が、状況に応じて計画の見直しをしている。	介護計画は家族等に十分な説明と話し合いの上作成され、誰が見てもわかりやすく、職員も支援しやすい介護計画書となっている。毎月モニタリングを行い、基本1年で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄等を記録し、スタッフ間で情報を共有し、ケアにつなげている。連絡漏れがないよう、連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて通院介助を行っている。必要に応じて買い物代行も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や訪問歯科サービスを活用している。運営推進会議に地域の方々に参加して頂き、情報交換をし豊かな生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も「かかりつけ医」の受診が継続できるよう支援を行っている。	契約時にかかりつけ医の継続受診が出来る事を説明している。協力医療機関の受診に月1回行っている。家族等が付き添う場合には日々の状態を記載した書面を作成し、持参してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員の配置はありません。介護職員が同じ系列の協力病院の看護師や医療機関と連携を取り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の状況に応じて、家族や医師と話し合う機会を持ち、早期退院を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階での看取り支援は行えない等、重度化した入居者に対し、施設で出来ること出来ないことを説明している。家族の意向を聞きながら新たな支援を検討し、医師と相談しながら取り組んでいる。	看取りは行わないことを、「重度化・看取りに関する説明文及び同意書」の中で説明し、同意を得ている。重度化した際には状況の変化に応じて繰り返し話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の研修として、全職員が上級救命講習を習得している。また、施設内に「AED」を設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を行い、地域の代表の方々に声をかけ参加して頂いている。	夜間想定を含む避難訓練を行い、訓練後は反省会を行っているが、反省点を踏まえた次回訓練の課題を設定するまでには至っていない。近隣住民へは訓練への参加を呼び掛けている。	地震に対する避難訓練の実施と反省点を踏まえた次回の訓練の課題を明確にし、取組むことを期待する

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては十分に注意している。一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないよう対応を心がけている。	利用者の尊厳に配慮し、プライバシーを損ねない言葉遣いを心掛けている。個人情報と肖像権が同一用紙で記載されている同意書であり、項目ごとに「同意しない」の選択ができるものとなっていない。	肖像権に関する確認書の構築と研修会の実施を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分で決めることができるよう支援を行っている。自己決定が困難な方については表情やしぐさにより、本人に確認を取りながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はほぼ決まっているが、本人の状態や希望があればそれに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にて希望を聞きながら対応している。一部の利用者は、本人のなじみの美容室を利用している。また 室内の清掃・片付けを一緒にしたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況に応じギザミ食で提供する。またアレルギーや制限のある食材に関しては代替品を準備し対応している。下膳、テーブル拭きをお願いしている。	利用者はそれぞれ下膳やテーブル拭きなどできることを手伝っている。季節ごとの行事食を提供したり、近所のラーメン店や回転寿司で外食を楽しんでいる。餃子パーティーやおやつ作りなども行って食事が楽しみとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック記録をし摂取状況を把握している。水分量の少ない入居者には好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後きちんと口腔ケアを行う入居者もいるが、一部の入居者に限られている。毎週月曜日の訪問歯科受診時口腔ケアを行っている入居者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録をしパターンの把握を行い、定期的な声掛け誘導を行い、排泄の失敗を減らせるよう努めている。	排泄チェック表から利用者それぞれの排泄パターンを把握し、適切な声掛けをして、昼夜を問わずできるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取っていただく、体を動かす等便秘の予防に取り組んでいます。慢性化した便秘には受診時、医師と相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿う入浴支援を行っている。入浴を拒む入居者には声掛けを工夫しながら入浴を楽しめるよう支援をしている。	職員の都合でなく、利用者の希望する時間に入浴できるようにしている為、毎日入浴する利用者もいる。入浴剤、ゆず湯やしょうぶ湯で五感を刺激したり、季節感を出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活習慣に合わせるよう心がけ室温や光、音などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、全職員が把握できるようにしている。定時薬に変更がある際、アセスメントや連絡ノートに記録し服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に手伝い等、役割を持ち日課としている。カラオケが好きな入居者は、カラオケを楽しむ気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別の買い物や散歩などの希望には随時応え、家族からの希望があった際には、その都度支援を行っている。	近隣の牧場まで散歩に出かけ、草を食む乳牛を見たり、敷地内で散歩をして、季節の移り変わりを身近に感じられるようにしている。近隣のホームセンター等に職員と出かけ、ウィンドウショッピングや買物を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る入居者は少量のお金を所持し、施設内自動販売機を利用している。また、自己管理が難しい入居者も買い物代行など対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった際、その都度対応している。また家族からの電話には可能な限り話ができるよう支援している。個人で携帯電話を所持し利用されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々が快適に過ごせるよう光や音、湿度等配慮している。季節を感じていただけるよう行事に合わせた飾りつけや花を飾っている。	温度や湿度、光もこまめに管理された過ごしやすい空間になっている。壁面には、季節に応じた利用者と職員で作成した飾り物や行事の写真等が掲示され、季節を感じさせるよう工夫している。玄関ホールにはソファが設置され、季節の花や飾り等が季節に応じて飾られたり、職員手作りの鳥居等が置かれ、利用者の語らいの場、目を楽しませる場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを置きテレビを見たり会話しやすくゆっくりくつろげるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのものを持参していただき居室内に飾る等居心地よく過ごせるようにしている。	管理者は使い慣れた物を何でも持ち込むように説明している。利用者が部屋を間違えないように、利用者毎に違ったリボンや飾り物を利用者の入り口に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	二階建ての為、歩行困難な方用にエレベーター、階段、棟内は手すりを設置している。二階バルコニー1箇所のみ危険防止のため鍵を取り付けてあるが、夜間のみ施錠している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム玉里の里

作成日 令和3年4月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	入居時の聞き取りや日々の会話の中からこれまでの馴染みの関係を把握しているが、職員間で共有できるような記録が作成されるまでには至っていない。	聞き取り調査で得られた情報を記載し、フェイスシートを充実させるとともに職員間で情報共有することを期待する。	利用者の情報が詳細に記載できるフェイスシートを作成し、保管場所を明確にしておきます。	6ヶ月
2	35	夜間想定を含む避難訓練を行い、訓練後は反省会を行っているが、反省点を踏まえた次回訓練の課題を設定するまでには至っていない。近隣住民へは訓練の参加を呼び掛けている。	地震に対する避難訓練の実施と反省点を踏まえた次回の訓練の課題を明確にし、取り組むことを期待する。	避難訓練の年間計画に地震想定を組み入れる。また、避難訓練の反省点を次回の実施計画に盛り込んで行います。	6ヶ月
3	36	利用者の尊厳に配慮し、プライバシーを損ねない言葉遣いを心掛けている。個人情報と肖像権が同一用紙に記載されている同意書であり、項目ごとに「同意しない」の選択ができるものとなっていない。	肖像権に関する確認書の構築と研修会の実施を期待する。	入所契約時に、個人情報に関することと肖像権に関することを同じ同意書で行なっていたが、今後は別々に同意書を作成して確認します。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。